



江北二丁目の五色堤公園内にある栽櫻記碑

「昭代楽事」所収の栽櫻記を掲げた石碑（写真右側）。江北二丁目57番から現在地に移転。

# 足立史談

## 第 399 号

2001年 5月 15日

足立区教育委員会

足立史談編集局

足立区立郷土博物館内

〒120-0001

東京都足立区大谷田5-20-1

TEL 03-3620-9393

FAX 03-5697-6562

〈13-337〉

## 「昭代楽事」の人々

### 第 2 回

### 矢 沢 幸一朗

「栽櫻記」まではすべて漢文で綴られ、江北の人々の文化水準の高さを披露しているようである。このあと短歌・俳句と続いている。

※（ ）内は筆者注記

江北村式千式百十六間三合三勺  
西新井村壹千間  
櫻樹総数三千式百式拾五本  
左種類如  
（七八種類の名前をすべて掲げている）

有志者醸金及人名（人名略）

元鹿濱村（五六名 六八円三拾錢）

元鹿濱新田（一八名 九円五錢）

元加賀皿沼村（二三名 七円三拾錢）

元堀之内村（一七名 二九円五拾錢）

元沼田村（二八名 九円）

元宮城村（二〇名 三円）

元小台村（六名 一三円五拾錢）

元高野村（五円）

元本木村（四拾円）

元領家村（二名 二円）

（総計金額式百九拾五円也）

以上が「昭代楽事」の全項目次である。

何より注目したいのは、江北村の人々の文学作品集であるということである。

江北文化の水準を示し、桜への思いを込めたこの一冊は、今日風に言えば「村おこし」の一大イベントでもあったと思える。かつての賑わいを伝え聞くにつけ、当時の人々の旺盛な息吹きは、やはり村長自らの活動に刺激されたからでもあるだろう。

江北から本木まで、今では高速道路の下になっただけでも心が浮き浮きしてくる。

「付録」に記録されているところによれば江北村地内に二二二六本、本木村地内には一〇〇〇本が植えられたという計算になる。にもかかわらず江北村関係の人々の醸金が圧倒的であることは、「江北の桜」とも言われる所以であろうか。今年もまた桜は人々の目を

楽しませてくれた。

短歌

俳句前文付き（五句） 岡田健次郎 埼玉人

其彭、華遊、悦子、梅子、江北（二句）、雲樵（三句）、三省、福八内、松花、積雪、祐宣、小天狗、猷甫、小石、松月、芳樹、豊詠、三省（二句）、香山、霞山、竹麿、如一、野生、笑山、狸楽、柳芳、芳笑、義詮、二徳、祐宣、梅賀、金羅

昭代楽事畢（ここまでで本文は終わる）

昭代楽事跋 明治廿四年六月 文莊石川兼六

昭代楽事自跋明治廿四年六月 淡如清水謙吾

（跋文は再び漢字で、序文と同じにやや大きめの活字が使われている。さらに興味深い次の「付録」が続いている。）

付録

自江北至西新井、堤長三千式百式拾六間三合

三勺

内

